

長野県公立高等学校入学者選抜制度(案)について

高校教育課
 教学指導課

1 新たな入学者選抜制度のねらい

- (1) 新しい学習指導要領に即して、学力や多様な資質・能力を伸ばすことにつなげます。
 中学校での授業への取り組みに加え、様々な学びや活動の成果を幅広く評価し、受検生の持つ多様な資質・能力を評価します。
- (2) 自分らしく学ぶ高校を選択するために、志望校の特色をわかりやすくします。
 各高校の特色や、どのような生徒を待っているかを示し、それに基づいた選抜を実施します。
- (3) 目指す高校への挑戦を応援します。
 全ての高校において2回の受検機会がある選抜もしくは、1回の受検で2つの異なる基準のある選抜を実施します。

2 現行制度と新たな制度の比較

項目		現行	改正後
受検機会		○ 2回（前期選抜と後期選抜の両方を実施する高校）または1回（後期選抜のみを実施する高校）	○ 同左 ○ ただし、前期選抜の募集人数は、定員の60%以内（現行50%以内）。
前期選抜	選抜資料	○ 面接等、調査書	○ 学力検査、調査書、その他の検査
	選抜方法	○ 選抜資料をもとに、各校が独自の観点により評価し選抜	○ 同左
後期選抜	選抜資料	○ 学力検査、調査書、面接等	○ 学力検査、調査書、その他の検査
	選抜方法	○ 選抜資料をもとに総合的に評価し選抜	○ 同左 ○ ただし、選抜の基準として、共通の枠組みによる基準「A基準」と、各校の独自性を重視した基準「B基準」を設定。 ○ 前期選抜を実施する高校ではA基準による選抜のみを実施。後期選抜のみを実施する高校では、A基準による選抜だけではなく、定員の30%以内でB基準による選抜を実施。（A基準による入学予定者を決定し、次にB基準による入学予定者を決定する。）

【中学生へのメッセージ】

- ・ 授業を大切に、基礎的な知識・技能の習得はもちろん、思考力・判断力・表現力等にも磨きをかけましょう。
- ・ 探究的な学びや、校内外での様々な活動に対して、積極的に取り組みましょう。
- ・ 将来の夢、挑戦したいこと、自分が学びたい学習スタイル、自分の得意分野等に適する高校を選択しましょう。
- ・ 異なる選抜機会を利用して、自分らしく学ぶことのできる志望校にチャレンジしましょう。

3 制度の骨子

(1) 前期選抜

ア 募集人数

- ① 定員の60%以内とし、各校が設定する。
- ② 特色学科¹⁾は90%以内とする。

イ 志願

- ① 各校が設定する募集の観点に応じて志願を行う。
- ② 志願時に入学を辞退しない旨の確約を行い、確約書の提出を求めない。
- ③ 入学予定者となった場合は、その後他の公立高校に志願することはできない。

ウ 選抜資料及びその評価方法

- ① 学力検査²⁾
 - ・「学力検査Ⅰ」及び「学力検査Ⅱ」の2種類の学力検査を実施する。内容は中学校までに学習する基礎的な問題とする。
 - ・「学力検査Ⅰ」は国語、社会、英語(リスニングテストを除く)の3教科について出題。(45分、120点)
 - ・「学力検査Ⅱ」は数学、理科の2教科について出題。(30分、80点)
- ② 調査書
 - ・すべての記載内容を選抜の資料とし、9教科の評定を用いる。
- ③ その他の検査
 - ・「面接」、「プレゼンテーション」、「グループ討議」、「実技」、「小論文」、「学校独自の学力検査」などから、各校が特色に応じて設定する。
 - ・調査書のうち特定の項目を取り出して、その他の検査として用いることができる。

エ 選抜方法

- ① 3つの選抜資料を用いて総合的に評価する。
- ② 「学力検査Ⅰ」と「学力検査Ⅱ」の比率については各校が決定する。

(2) 後期選抜

ア 募集人数

各校の募集人数は、定員から前期選抜における募集人数を除いた数とする。前期選抜の合格者数が募集人数に満たなかった場合は、定員から前期選抜の合格者数を除いた数とする。

イ 志願

各校が設定する募集の観点に応じて志願を行う。

ウ 選抜資料およびその評価方法

- ① 学力検査
 - ・国語、数学、社会、理科、英語(リスニングテストを含む)の5教科の学力検査を実施する。各教科とも50分、100点(合計500点満点)の検査を実施する。
- ② 調査書
 - ・すべての記載内容を選抜の資料とし、9教科の評定を用いる。

1) 本県における特色学科とは、高等学校設置基準第六条における「専門教育を主とする学科」のうち、農業、工業、商業、水産、家庭、情報、福祉以外の学科で、現時点においては、理数科、探究科、学究科、国際教養科、国際観光科、スポーツ科学科、音楽科をさす。
2) 「学力検査」とは、長野県教育委員会において作成し、全県共通で行われる検査をさす。

③ その他の検査

- ・「面接」、「プレゼンテーション」、「グループ討議」、「実技」、「小論文」、「学校独自の学力検査」などから、各校が特色に応じて設定する。
- ・調査書のうち特定の項目を取り出して、その他の検査として用いることができる。

エ 選抜方法

- ① 3つの選抜資料を用いて総合的に評価する。
- ② 「A基準」及び「B基準」による2つの選抜基準を設定する。
 - ・A基準は、全県において共通の枠組みで実施する選抜基準とする。
 - ・B基準は、各校の特色に基づき、共通の枠組みにとられない選抜基準とする。
- ③ 前期選抜を行う学校・課程・学科においては、A基準による選抜のみを実施する。
- ④ 後期選抜のみを行う学校・課程・学科においてはA基準及びB基準による選抜を実施する。
 - ・A基準の入学予定者を決定し、次にB基準の入学予定者を決定する。
 - ・B基準による選抜の入学予定者は、定員の30%以内とする。

	A 基準	B 基準
学力検査	○ 全ての教科を評価対象とし、5教科・各100点、500点満点で評価する。	○ 評価に用いる教科や、教科間の比率は各校が決定する。
調査書	○ 9教科の評定を用い、教科間の比率の変更はできない。	○ 9教科の評定を用い、教科間の比率は各校が決定する。
その他の検査	○ 「面接」「実技」「学校独自の学力検査」などから、各校が決定する。 ○ 調査書のうち、特定の項目を取り出して用いる場合もある。 ○ A基準とB基準で評価する対象を変更することができる。	

(3) 再募集

ア 実施校

後期選抜の結果、入学予定者が定員に満たなかった学校・課程・学科において実施する。

イ 募集人数

定員から入学予定者数を除いた人数とする。

ウ 志願

後期選抜の学力検査を受検したもののうち、入学予定者とならなかったものが志願できる。

エ 選抜資料およびその評価方法

後期選抜に準じる。

オ 選抜方法

選抜資料を総合的に判断し、入学予定者を決定する。

(4) その他

ア インフルエンザ罹患患者への追検査については、現在別室受検等で対応している状況を鑑み、全国の動向を注視して検討を進める。

イ 隣接県から通学可能な生徒の受け入れについては、その方策について検討するとともに、関係各県との協議を併せて進めていく。

ウ ICT機器等の活用については、その有効性と信頼性を確認の上、段階的に導入する。

4 学力検査の内容

	前期選抜		後期選抜
出題方針	中学校までの学びの中で培った、知識・技能及び思考力・判断力・表現力等の学力を、総合的に測れるように出題する。		
実施検査	学力検査Ⅰ	学力検査Ⅱ	国語・数学・社会・理科・英語（リスニングテストを含む）の5教科の学力検査
	国語・社会・英語（リスニングテストを除く）の3教科について出題	数学・理科の2教科について出題	
検査時間	45分	30分	各検査50分
配点	120点	80点	各検査100点満点
形式	以下の3つの形式の問題を出題する。 ①選択式問題 ②短答式問題 ③記述式問題（自分の考えをまとめたり、根拠に基づいて論述したりするもの）		
	上記の問題のうち、選択式問題、短答式問題を主として出題する。		上記の問題をバランスよく出題し、特に記述式問題を充実させる。

○英語の4技能評価

英語教育の抜本改革を踏まえ、高等学校入学者選抜学力検査において、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を適切に評価するため、スピーキングテストを導入する方向で検討を継続する。

※スピーキングテストの導入までは、英語の検査問題（リスニングテストを含む）において、「話す」力について間接的に評価する問題を出題する。

5 実施までのスケジュール

時期	教育委員会	各高等学校	新学習指導要領		該当学年
			中学	高校	
2018年度 (平成 30)	3月入学者選抜制度(案)公表	「3つの方針」検討	移行期間		小学校6年生
2019年度 (平成 31)	パブリックコメント実施 入学者選抜制度 公表	実施方法検討 「3つの方針」公表			移行期間
2020年度	周知 前期選抜学力検査 問題例公表	実施方法公表	全面実施		中学校2年生
2021年度	選抜要綱 公表 2月～3月 新たな入学者選抜 実施				
2022年度				年次進行で実施	高校1年生

- (1) 新しい入学者選抜制度は2022年度選抜（2021年度末に実施）より始まります。
- (2) 各校の募集の観点・検査内容・選抜方法等は2020年度前半を目途に発表します。
また新たに前期選抜で行われる学力検査の問題例も2020年度中に公表します。
- (3) 各校の実施方法が決定した後、各校では学校案内やホームページへの掲載、体験入学・授業公開・説明会の実施等により、選抜の内容について周知を図ります。

(別添資料)

長野県公立高等学校 入学者選抜制度(案)の概要

- (1) 入学者選抜制度のしくみ
- (2) 入学者選抜制度の内容
- (3) 実施例

(1) 入学者選抜制度のしくみ

前期選抜

- 前期選抜を行う高校と、行わない高校があります。
- 募集人数は定員の60%以内で各校が設定します。(ただし特色学科*1は90%以内。)

志願 2月上旬

- 各校の募集の観点に応じて志願します。

受検 2月中旬

- 学力検査 (2種類 200点満点)
- その他の検査

入学予定者の発表 2月下旬

- 入学予定者となった生徒は、後期選抜に志願することはできません。

後期選抜

A基準

B基準

- 後期選抜はすべての高校が行います。
- 募集人数は、前期選抜合格者数を除いた人数です。
- 後期選抜においては、「A基準」・「B基準」の2つの選抜基準を設けます。

- ・ 「A基準」による選抜は、すべての高校で実施します。
- ・ 「B基準」による選抜は、後期選抜のみを行う高校において実施します。
- ・ 「B基準」による選抜を実施する高校においては、まず「A基準」の入学予定者を決定し、次に「B基準」の入学予定者を決定します。
- ・ 「B基準」は各校の特色に応じた基準とし、定員の30%以内とします。

志願 2月下旬～3月上旬

- 各校の募集の観点に応じて志願します。
- 後期選抜のみを実施する高校に志願する受検生は、「A基準」・「B基準」両方の選抜の対象者となります。

志願変更 3月上旬

受検 3月上旬～中旬

- 学力検査 (5教科 500点満点)
- その他の検査

入学予定者発表 3月中旬～下旬

再募集

- 後期選抜の学力検査を受検した生徒で、入学予定者とならなかった生徒が志願できます。

志願および入学予定者の発表 3月下旬

- 面接、作文等、各校が設定した検査

*1 特色学科とは、以下の学科をさします。

理数科、探究科、学究科、国際教養科、国際観光科、スポーツ科学科、音楽科

(2) 入学者選抜制度の内容

○ 学力検査：いずれの選抜においても行われます。

前期選抜：2種類の検査を行います。中学校までに学習する内容についての基礎的な問題を出題します。

学力検査Ⅰ：国語・社会・英語(リスニングテストを除く)の3教科(45分・120点)

学力検査Ⅱ：数学・理科の2教科(30分・80点)

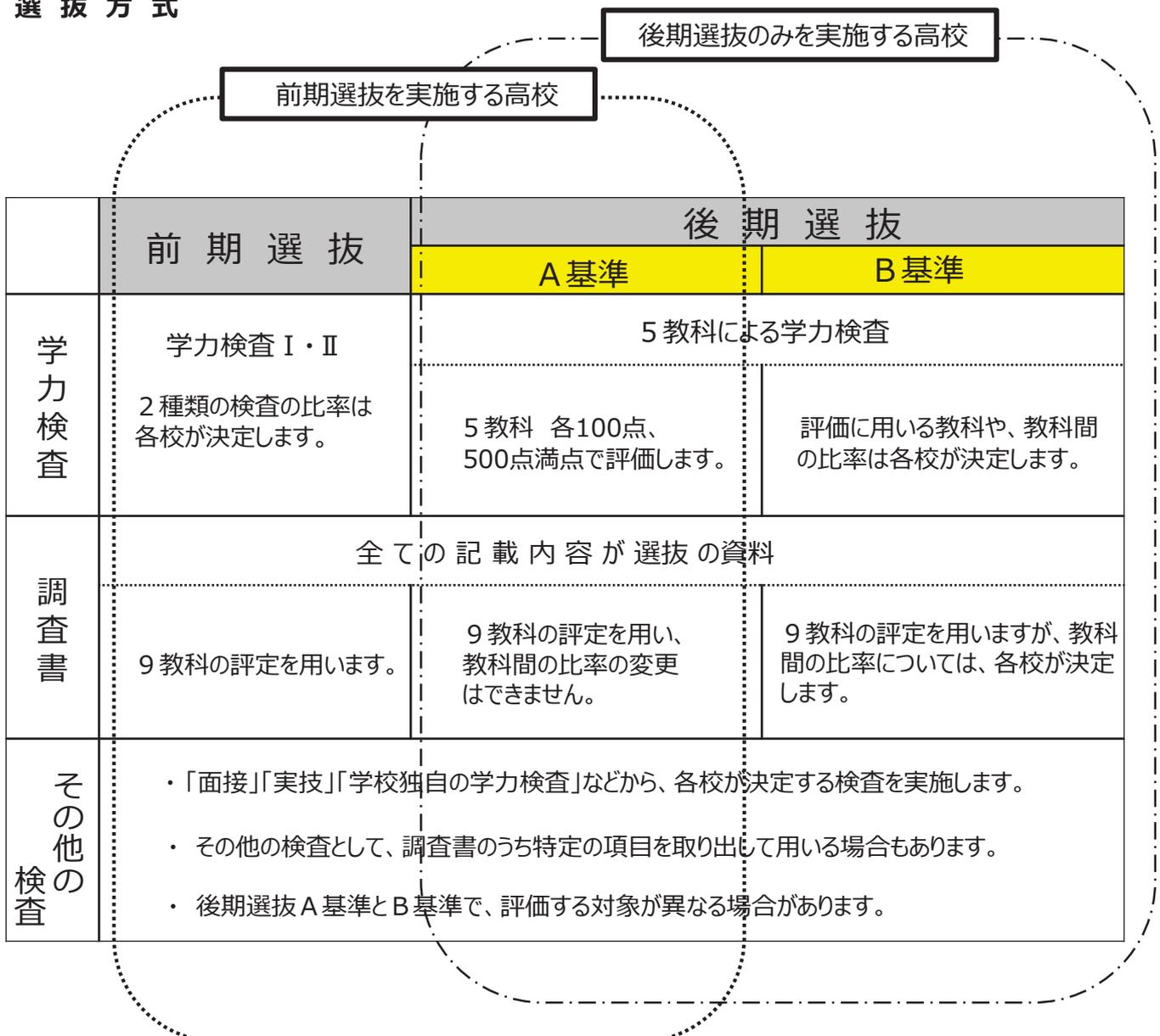
後期選抜：国語・数学・社会・理科・英語(リスニングテストを含む)の5教科(各50分・500点満点)

○ 調査書：現行の調査書に、3年次の観点別評価を加えた様式です。

○ その他の検査：いずれの選抜においても行われます。

「面接」など、各校が決定した検査を実施します。

選 抜 方 式



(3) 実施例

X校

(募集定員160名)

地域と連携したキャリア教育の推進を3つの方針に位置付けた普通高校。「本校で学習する意欲の高い生徒」「中学時代に生徒会やボランティア活動などを積極的に行った生徒」を募集したいと考える。

前期選抜

募集人数：定員の60% 96人

- 学力検査
 - ・ 2種類 200点満点。
- 調査書
 - ・ 全ての記載内容を選抜の資料とする。
 - ・ 3年次の9教科の評定を用いる
- その他の検査
 - ・ 個人面接 ・ 作文
 - ・ 調査書の記載内容のうち、生徒会や校外活動などの実績

後期選抜

A基準

募集人数：前期選抜の募集人数を除いた64人

- 学力検査
 - ・ 5教科 500点満点
- 調査書
 - ・ 全ての記載内容を選抜の資料とする。
 - ・ 3年次の9教科の評定を用いる。
- その他の検査
 - ・ 個人面接

Y校

(募集定員280名)

理数分野の探究学習の推進を3つの方針に位置付けた普通高校。同分野において中学生期に研究発表を行い、さらに高等学校において研究活動を続けたいという意欲を持っている生徒を、B基準の選抜においても入学予定者としていたいと考える。

前期選抜

実施せず

後期選抜

A基準

入学予定者は定員の90%程度とする。

- 学力検査
 - ・ 5教科 500点満点
- 調査書
 - ・ 全ての記載内容を選抜資料とする。
 - ・ 3年次の9教科の評定を用いる。
- その他の検査
 - ・ 調査書における観点別評価のうち、「主体的に学習に取り組む態度」に係る項目

B基準

入学予定者は定員の10%程度とする。

- 学力検査
 - ・ 5教科のうち、数学と理科の点数を2倍する。700点満点
- 調査書
 - ・ 全ての記載内容を選抜資料とする。
 - ・ 3年次の9教科の評定を用いる。ただし数学と理科の評定を2倍とする。
- その他の検査
 - ・ 調査書の記載内容のうち、理数分野の研究発表の実績

Z校

(募集定員240名)

信州に根ざしたグローバルな学びの推進を3つの方針に位置付けた普通高校。中学生期に学校内外で主体的な研究発表活動を行い、高等学校においては世界的な諸課題と関連付けながら、地域の課題解決に取り組む意欲のある生徒を、B基準の選抜においても入学予定者としていたいと考える。

前期選抜

実施せず

後期選抜

A基準

入学予定者は定員の70%程度とする。

- 学力検査
 - ・ 5教科 500点満点
- 調査書
 - ・ 全ての記載内容を選抜資料とする。
 - ・ 3年次の9教科の評定を用いる。
- その他の検査
 - ・ 英語による自由作文（短時間）

B基準

入学予定者は定員の30%程度とする。

- 学力検査
 - ・ 国語・社会・英語の3教科 300点満点
- 調査書
 - ・ 全ての記載内容を選抜資料とする。
 - ・ 3年次の9教科の評定を用いる。ただし英語の評定を2倍とする。
- その他の検査
 - ・ 英語による自由作文（短時間）